



# ぶどうのささやき

7号

2010年  
4月20日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## ◆経営には感性が必要である◆

元シュロフ株式会社代表取締役社長  
高木 紀世子（作家：吾意<sup>あ い ざ い や ゆ う</sup>在野游）



昨年の3月末に外資系企業の社長を退任し、退職した。だが、(財)神奈川産業振興センター（Kanagawa Industrial Promotion Center）の会員組織KIP会の「女性管理職交流会」と「経営者意見交換会」のコーディネータは続けている。「女性管理職交流会」は立ち上げてから15年にもなる。「経営者意見交換会」では、昨年の5月と7月に「18年の経営から学んだこと」～経営で一番大切なことは何なのか～というテーマで話をした。その後の懇談会で「高木さん、今日の話、本当に良かった。本、出したら売れるよ」と言われた。「いや～、本は出すつもりなんです」と、笑って話は途切れた。実際、10月に本を出版したが経営本ではない。「魂を抱きしめて――桜子」と題する小説で、上下巻に及ぶ長編だ。5年前から書き始めていたのだが、「長年、経営をしていて、よく、そんな小説を書く感性がありましたね」と、経営者の仲間は驚いた。ところが、経営にこそ感性が必要だと常々わたしは思っている。

経営者は孤独である。特に、中小企業の経営者にはやるべきことがあまりに多い。問題は山積している。しかも、頼りになる参謀がいるとは限らない。ヘルマン・ヘッセの「独り」という詩の中に「だが、最後の一步は自分ひとりであるかねばならない」というのがある。経営者には「最後の判断は自分ひとりでしな

ければならない」に置き換えられる。その判断の基準になるものは何だろうか。本や研修会などで知識を得ること、コンサルタントからノウハウを学ぶことは大切だ。成功した人の話を聞くのも良いだろう。だが、その何割が自社に応用でき、自分が実行できるのだろうか。自分の判断に役立つのだろうか。耳で聞いた話や頭で理解したことを実行に移すのは難しい。エネルギーがいるし、相当な勇気もいる。予算的に厳しい場合もある。しかも、結果的に自社に役立つかどうか決め手がない。結局は安全な道を選び、手を付けずに終わるか、中途半端に終わる。だが、先は見えていない。そんなとき、気持ちを切り替えて、感性が働くような「人の集まり」に参加してみてもはどうだろう。特に、経営者や経営者の卵が集まる意見交換会が良い。参加者は机上の理論や成功談ではなく、直面している現場の話をする。問題点や悩みは話題になり、話をしているうちに解決策らしきものが浮かんできたりする。また、「うちでも実行できそうだ」と五感が感じるものがある。意見交換会の後は懇親会で飲み食いし、語り、笑う。一緒に笑うことが大事だ。そうすれば、何かができそうだという気分になって帰路につける。次の日はひとりで判断しなければならない孤独な経営者に戻ってしまう。だが、五感が「これだ」と感じたものを実行してみようと思いは始めている。そんな自分に気がつく。自分ができそうな方法で実行すると、それは経営上の小さな財産になっていく。さらに、その感性で個々の判断をすれば自信につながる。経営には感性が必要である。

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 平成22年度事業計画(案)

理事長 木下 武

昨年末の政府の発表では、わが国の経済はプラス成長を始めたとありましたが、内需産業や消費財部門は依然マイナスで、地域経済には明るさが見えないのが現状です。当研究会の平成22年度事業計画では、さらに地域経済の現状把握に努め、活性化につながる施策を織り込む所存です。

### 1、運営関係

#### 1) 活動地域の拡大

顧客要求の厳しさに直面する中小製造業対策として他地域との連携強化を模索・開拓します。

#### 2) 支援企業の増強対策と法人会員の拡大

支援対象は法人会員企業ですが、会員外の一般企業にも支援活動を拡大します。特許調査、ISO認証取得、翻訳関係など支援活動を通じて新規法人会員の拡大を目指します。

#### 3) 個人会員の募集対策

活動地域・内容の拡大にともなって個人会員の増強を図ります。

#### 4) 他団体との連携強化

県内外のNPO法人と協力関係を深めて、相乗効果が期待できる事業運営を図ります。

#### 5) 補助金事業への募集活動

地域経済活性化への施策として、各関係行政が設けている補助金・助成金制度に積極的に応募して関係強化に努めます。

#### 6) 業務委託の受託活動

行政及び関係機

関から当研究会の中小企業支援活動が認知度を高めています。本年度はさらに県や関係する市からの受託活動の活発化を図ります。

### 2、事業関係

#### 1) 各種支援事業

①中小企業支援事業(特許関係支援、ISO認証取得支援、業務改善支援など)

②海外関連事業支援(米海軍入札支援、文書翻訳、海外実務コンサルなど)

③ホームページ事業(新規作成、定期更新、英文化など)

④住宅リフォーム事業(計画/発注時のお目付け役など)

#### 2) 産学連携事業

当研究会の支援対象の中小企業や中小製造業が取り組む諸課題について、横浜国立大学や関東学院大学との産学連携プロジェクトに繋ぐ役割を担います。また、具体的な課題については神奈川県産業技術センターへ繋ぐ役割を担います。

#### 3) 横浜関係事業

平成19年度から横浜市との3カ年の協働事業として「京浜工業地帯と地方の中小製造業の補完関係構築支援事業」をスタートし、昨年度で終了しました。本年度も引き続き同事業を継続していきます。

#### 4) その他

個人・法人会員の増強、住宅リフォーム支援活動の市民への衆知には当研究会のさらなる認知度の向上が不可欠のため、会報誌・ホームページなどを活用した広報活動の強化を図ります。



**【歳時記】 桜と松山と横須賀**  
 3月11日の新聞に「松山で桜が開花！」と出ていた。今年は何年にもなく寒かったので、南九州でもない松山で早々と桜が咲き始めたのには驚いた。  
 松山と言え、三三三が3年間に亘り年末に放映する「坂の上の雲」に登場する秋山好古・真之の兄弟の故郷である。  
 弟の真之は日本海海戦の作戦参謀として東郷司令長官と共に常に戦艦三笠と運命を一つにしていた。横須賀の三笠公園にある戦艦三笠の艦橋から辺りを見渡すと、東側には東京湾越しに上総の富津辺りが見え、陸側には広場のまわりに桜が植えられている。この桜が咲き始めると海と爛漫の花に覆われた素晴らしい景色を堪能できる。  
 松山や横須賀に限らず日本人は桜の花に特別な華やぎを覚えるようだ。隠りがちな冬から、明るい春の日差しに誘われてさまざまな花で景色が彩られる。「ああ花開くうつくしき4月よ」とは、どなたかの名句と聞く。ちょうどこの頃が年度替わりに当たるため、卒業式や入学式、昇進・昇格など、新しい出会いが始まる。人生の喜びと重なることから、より華やぎを感じるのだろう。  
 しかし一方、どんなに絢爛豪華に咲き誇った桜の花でも、わずか2週間の寿命ではない。人の命の儚さにも通じるものがある。昔から武士の生き様にも例えられた。さらには先の太平洋戦争では軍国主義教育や特別攻撃隊の鼓舞に使われるなど、悲しい歴史も秘めている。  
 花暦は桜から牡丹・石楠花・躑躅、藤・皐月・菖蒲へと移ろい、やがて紫陽花と共に鬱陶しい梅雨の季節になる。齢だけが重なっていく。(康)

## 法人会員紹介

### 有限会社 原田運送

#### 地域と共に環境に配慮した 物流の未来を考える

〒238-0316 横須賀市長井 1-17-4  
Tel : 046-856-4650 Fax : 046-856-7093  
E-mail : info@harada-unsou.com

弊社の設立は、昭和33年9月で、一昨年設立50周年を迎えました。当時は三浦半島一帯野菜畑が多かったため、青果の輸送を主目的として、先代社長原田忠治が小型車両限定で、現在の場所に地域密着型の企業として開業しました。現在は二代目の原田周二が引き継いでいます。

現社長になってから時流に添って、一般小型車、貨物大型車に加え、混載可能な車両を多く導入して、取扱い製品の多角化へと拡大を図るなど、常に荷主側の細かいニーズに応える、を優先してきました。

自動車部品、ビール・飲料水・こわれもの・生鮮野菜・宅配便・大型海上コンテナ・さらには三浦半島の地域性を生かした、ボート・ヨットなども手がけていけば物流の「総合デパート」的な機能を果たしているかと自負しています。これこそが、創業者の目指した「地域社会と住民に密着した、“まごころで奉仕する”という思想であり、これが確実に受け継がれてきたということです。

その後、何回もの経済危機による石油燃料の大幅値上げに対しても決して消極的にならずに、ピンチをチャンスと考える発想、また情報氾濫時代には必要な情報だけを吟味する、という経営スタイルで平成5年には「移動空間ビジネスから固定空間ビジネス」への事業転換・改革を実施しました。つまりコンテナなどのレンタルスペース事業です。これは周辺に市街地調整区域が多く点在していることに着眼し、一般市民や事業主向けの小型・大型コンテナ以外にも、事業主で作業場を必要とする方々の需要に応じて、空間そのものを提供するもので、そこに運び込む各種資材の輸送も請け負うことで従来の事業との相乗効果にもなり、さらには同業他社の大型トラックその



ものの車庫ともなり、遊休土地の有効活用を模索していた近隣の地主の方々

にも喜ばれています。

さらに直近の石油燃料高騰による大幅経営悪化の教訓と、大量の化石燃料使用によるCO2排出、地球環境汚染の一因がディーゼルトラックなどによるものだというので、「地球のために今」とキャッチフレーズで、平成18年度から新規にリサイクル事業を開始しました。廃食油を回収(有料)して、バイオ燃料の精製を開始したのです。

ご存知のように再生可能なバイオ燃料は京都議定書でCO2排出量はゼロと認められていますので、小規模ながらも地球環境改善と自社の経営改善の一石二鳥の効果と、さらには近隣住民及び行政機関への廃食油の処理問題に多少なりとも貢献でき、三鳥の効果をあげています。

環境関連のリサイクル事業としてはこれからの課題として、生ゴミの飼料化堆肥化、リサイクルタイヤ活用などに取り組んでいきます。

お蔭様で数々の経済危機をなんとか乗り越え、保有車両台数も40台近くまでになりました。

①生涯現役 ②全員正規社員 ③リストラをしない、が当社のポリシーです。本人の希望以外は全員正社員で、現在70才の方も生き生きと働いています。

今後は取扱い物量の減少も予想されますので、「物から人へ」の発想で子育て・介護併設のレンタルスペースなども手がけていきたいと考えています。どのような事業転換・展開になっても初心・原点を忘れず物流を核に環境に配慮し地域にまごころで奉仕する小さいながらも、持続可能で輝き続ける企業でありたい、そして人々が集えるふる里づくりを目指しています。



初代忠治に因んで、元気で楽しく地域で働くチュウちゃん家族

## 部会活動紹介

今やインターネットを使えば世界中から無限ともいえる情報が手に入り、製品の売買はもちろん、経営管理、社員教育、資格取得、翻訳、各種調査など、ありとあらゆるものが有料・無料で利用できる時代になってきました。格段に便利になった反面、その結果問題が起こっても全て自己責任ですから慎重な信用調査など配慮が必要となります。中小企業におかれては、この難問を解決する専門部署を持つのも難しく、人手も足りません。

私ども産業クラスター研究会は、中小企業の方々がこのような段階で、さまざまな経営課題に対して自社の一部門のように安心して相談していただける組織であることを目指しています。

このため、当研究会はいくつかの部会に分かれてご相談に対応しておりますが、その構成員は現役時代に長年の事業活動や現に営む事業経営で培った専門知識や多方面にわたる広範な業務知識を駆使し、テーマに応じて最適の対応をおこなっています。特に高額な費用を要する特許事務所などの専門組織に依頼するかどうか決めかねる初期段階で、当会にご相談いただくと、その案件ごとの対応方法が一層はっきり見えるようになります。各企業所有の技術、経営上のノウハウなど数多くの社外秘事項については、当会ではその運営規則で会員に厳格な守秘義務を課しておりますので、その点でもご安心して相談いただけます。

以下部会毎に昨年度の活動状況をまじえてその活動を紹介しますので、ぜひ当会を活用されこの困難な時期を乗り切っていただきたいと考えております。また当会の法人会員には、個人会員の担当者を置き、電話・メール1本でなんでもご相談いただけるきめ細かな対応を行っております。法人会員として当会に加入されるのも大きな利点となります。

### 【企業支援事業部会】

◆平成21年度の実績  
ご利用企業数：13社  
ご相談案件：22社  
開催研修会：4件  
法人会員の「支援強化」を目的として、全法人会員トップと面談、当会活動への要望事項をヒアリングしました。要望は人材育成が最も多く、次いで販路開拓、また従来からの支援項目の継続など多岐にわたっていました。



知的財産セミナーで、木下理事長

営業実践セミナーを2回、また経営戦略としての技術開発について講演研修会を行いました。さらに、神奈川県の中企業活性化推進月間に、合わせて知的財産などのセミナー（本7頁参照）を開催しました。

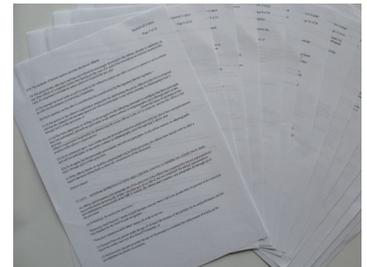
#### \*従来からの支援項目

- ・ISO27001 認証取得・・・法人会員1社には、昨年度のISO9001に引き続き、毎週1回の指導で予定通り認証取得。
- ・社員教育の実施・・・A社で、若手社員数名を対象に昨年度に続き、社員向け基礎教育を実施。
- ・特許関係・・・先行技術調査、販売品の権利調査、国内出願・外国出願支援。

### 【海外関連事業部会】

海外事業に携わっている中小企業の皆さんが自社での翻訳が困難であったり、事業上翻訳する必要があるかないか含めて、外国語での対応に時間がかかり、難渋している方々に当事業部会では、懇切丁寧な支援をおこなっています。

◆平成21年度の実績  
ご利用企業数：6社  
ご相談件数：10件  
翻訳件数：33件  
海外入札や海外企業との契約などでは、参考・関連文書は大変な数に



入札文書例

上り、全部翻訳すればとんでもない金額になりますが、当事業部会では前段階として面談しながらそれらの概要を相談し、処理方法の助言もおこなっています。さらにファクシミリやメールでの海外企業との応答についても即時対応での助言や翻訳、また、海外企業・機関の業務内容調査などもインターネットを使ったり、JETROなどの公的機関での調査も代行しています。

### 【横浜事業部会】

横浜市との協働事業（京浜工業地帯と地方の中小製造業補完関係構築支援）も3年目となりましたが、中小企業の皆さまの課題解決をベースにおきながら平

成 21 年度は、横浜北工業会での協働事業の説明会実施と協力関係構築の活動を中心に、展開してきました。

- ◆平成 21 年度の実績
- 訪問企業数：60 社
- 延べ訪問回数：80 回
- ご相談案件：11 件
- 成果案件：4 件
- 訪問した中小企業の



業種は金属加工業はじめ電機製品・装置、機械、自動車部品製造業など多数、企業の皆さまが抱かえている課題も多岐にわたっています。中でもとりわけ多いのが販売先の紹介依頼の話であり、景況をまさに反映したものとなっています。その他特許申請支援や社員教育の要請も数多く寄せられました。企業訪問記録は企業は 60 社余りで、17 業種、製品の種類も数多く登録されています。

本事業推進に当っては本誌への記事掲載や経済団体の紹介などで横浜市の多大な支援をいただいています。今後はこれまで集積した企業情報や商品情報をデータベース化して、企業間の紹介、商品紹介を行い情報の集積と発信基地としての機能を担うことや、他 NPO 団体との協力関係により活動の幅を広げ、中小製造業の皆さまが元気になる活動を続けていきます。

### 【産官学連携支援部会】

- ◆平成 21 年度の活動実績。
- 利用企業：4 社
- 相談案件：6 件

当部会の連携支援活動では、大学、公的研究所、業界団体が主催するイベント・セミナー等にこまめに出席して、そこに出席されているシーズを把握し、説明している研究者とコンタクトしておきます。既に詳細を把握している当会法人会員の具体的ニーズと照らし合わせ、マッチングする可能性の高い案件に対して両者の直接面談をセットする方法を取っています。

昨年度の例では、装置メーカー（当会法人会員）から機械部品の加工歩留まりが低いので、材料の基礎技術から問題点を解析し改善したいとの相談があり、大学の研究室との協働で成功したケースがあります。案件一つひとつについて丁寧に事前調整を行い解決への道筋をつけ、両者から評価をいただいております。

### 【住宅リフォーム事業部会】

当研究会は、「住宅リフォームの目付け役」です。当会会員の 1 級建築士が、業者の見積から完工引渡しまで、第三者として施工監査を行うものです。この

ような非営利法人の活動は全国的にも例がない画期的なものです。

- ◆ 21 年度は横須賀市の NPO 支援基金（よこすか元気ファンド）をいただき、消費生活センターの協力を得て、「悪質リフォーム業者に騙されないために」のタイトルで、浦賀と追浜でセミナーを開催。大変好評でした。

◆平成 22 年度は、次のセミナーと相談会を開催する予定です。

- ・本庁管内 5 月
- ・大津行政センター管内 9 月
- ・久里浜行政センター管内 7 月
- ・衣笠行政センター管内 10 月
- ・浦賀行政センター管内 12 月
- ・田浦行政センター管内 2 月
- ・産業まつり 11 月（相談会のみ）

この事業では、住宅リフォームを契機に信用できる地元業者へ発注することによって、今はほとんど消滅しかかっている「掛り付け大工」「掛り付け水道屋」「掛り付け電気屋」の復活を図ろうとするのも、もう一つ



古川顧問の説明をメモを取りながら熱心に聞く参加者

の大きなねらいです。施行業者の皆さん、当会会員ではなくとも、ぜひ声をかけてください。

### 【ホームページ事業部会】

- ◆平成 21 年度実績
- 制作、見直し案件：4 社
- 相談案件：多数

21 年度は更新を自社で行いたいという企業に主眼をおき、社員教育を重視した活動としました。それぞれの企業の多様な要望への対応手段として他の NPO とも提携し、集合教育でも個別出張教育でも可能な体制ができました。

22 年度にかかる作業として、現存の日本語ホームページに加えて事業の海外展開に役立てるための英文ホームページの作成依頼があり、当会の海外関連事業部会と協力し、進出地域の文化や商習慣を考慮したデザイン、表現のコンテンツが作成できるよう準備に入っています。当部会は、WEB 作成の技術向上に加えて、マーケティング志向でのホームページ活用をテーマとして活動しております。

気軽に声をかけてください。

人々人々

表紙の人 高木 紀世子さん

## ◆<sup>ゆうえん</sup>游焉の境地で 人生を終わりたい◆

—「魂を抱きしめて」の上梓おめでとうございます。このたびはお忙しいところを産業クラスター研究会の会報誌へ原稿を有りがとうございました。「経営者には感性が必要である」と、全く同感です。

**高木** そうですね。今はハウツウばかりで、テクニックが優先されています。それはそれで、役に立つこともあります。大事なことは、それをどう受け止めて、どのような形で自分のものにするか、どう生かすか、ということでしょうね。私は「実践」という言葉が好きです。実行ではなく実践です。足偏ですね、自分の足で歩いて経験して、体で感じて体で覚えて、感性を育てる。感性の豊かな人って魅力的でしょう。

私は何かを始めようとするとき、戦略と戦術を明確にして、私の考えていることを社員にきちんと伝えて一緒に実践する。とことん実践する、というのが私のやり方です。出来るか出来ないかはやってみなければわからない。チャレンジですよ。ただ、企業である以上結果を出さなくてははいけない。利益を生まなくてははいけませんから、チャレンジに値するかしないか、徹底的に調査をします。そういうときにこそ、経験から培われた感性の出番です。私は大抵難しいと思われる方を選んでしまいますけれどね。というのは、難しいことは、他社ではあまり手を出さないから……。困難なことほど達成したときの喜びは大きいでしょう。このときの喜びは、実際に手掛けなければ、実践しなければ得られないことです。そういう一つ一つの積み重ねが感性を育てるのだと私は思います。

—まぎれもなくチャレンジャーですね。ごく普通のちょっとおませな、ヤンチャ娘が大学へ行って、恋をして一般企業に就職したが、体調を崩して休んだ10ヶ月の間に、将来の有望分野への職業進出を狙って着々と準備をする。そしてドイツ留学を果たし、帰国

後、狙い通りのドイツ系企業に就職して、最後は企業のトップにまで昇り詰めて、めでたく60才で一線を退く。さらに、若い頃からの目標だった小説を5年かけて書き上げる。ざっとプロフィールをたどっただけでも、本を読んでみたくになりますね。『吾意在野 游』というペンネームからのメッセージは。

**高木** 上は「われ意志をもって在野にあり」です。下の「游」は、この本にも書きましたが（下巻484頁）、周から漢の時代にかけて儒学者がまとめた礼記に「四焉<sup>えん</sup>」というのがあります。人間が学ぶときには4つの段階がある。まず1番目は「修焉<sup>しゅうえん</sup>」といって知識を学び吸収する。次に「蔵焉<sup>ぞうえん</sup>」、それを蓄えて見識を高める。3番目が「息焉<sup>そくえん</sup>」、息をするように自分のものとして、無意識のうちに実践できるようにする。最後の4番目は「游焉<sup>ゆうえん</sup>」といって遊んでいるかのように、おおらかな境地になる。これは学びだけではなく、人生にも言えることだと思います。私はその最後の段階にまで到達したいなあ、ということで「游」としました。それにこのサンズイの游の字が好きで、ペンネームはこれにしようと思前から決めていたんです。

—今はもう游の境地で余裕をもって、華道、茶道、香道、書道に着物と、純日本文化への造詣を深めていらっしゃる。

**高木** いやあ、游なんてとんでもない。まだ息にも到達していません。実は、ドイツへ行くまでは日本の稽古ごとには、一切興味がありませんでした。どれも花嫁修業の一つとっていましたから。ところが、ドイツへ行って日本のことをいろいろ聞かれ、全く答えられない自分がそこにいたのです。これが華道、茶道を習う切っ掛けです。香道も書道もその一線上です。自然につながっているんです。

—ゆったりと世界を広げていらっしゃる。やはり游ですね。どうもありがとうございました。

（インタビュー 卯月）



＊高木 紀世子（たかぎ きせこ）／作家：吾意在野 游（あいざいや ゆう）  
兵庫県生まれ。大学卒業後、日本の一般企業に就職。間もなく体調を崩して10ヶ月療養。その間にドイツ留学を決意。1976年ドイツへ自費留学。帰国後、日本企業、ドイツ系企業勤務を経て、1986年ドイツ系企業（シュフロフ株式会社）の日本法人設立に参画。1992年専務取締役、2002年代表取締役社長に就任。2009年3月退任。1995年より神奈川県で「女性管理職交流会」を主催し、現在も継続中。趣味は茶道、香道、書道、着物、水泳。夫と二人で横浜市に在住。

## ●●●●●●●●●● 神奈川県中小企業政策と 知的財産セミナーを開催 ●●●●●●●●●●

去る2月18日(木)、当研究会の主催により、下記のような「神奈川県の中小企業政策と知的財産活用セミナー」が開催されました。これは神奈川県が毎年2月を「神奈川県中小企業活性化推進月間」として、中小企業を対象とした各種行事を開催していることに協賛して県、横須賀市、横須賀商工会議所、(財)横須賀市産業振興財団の後援をいただき当研究会が主催したもので、お蔭様で盛況のうちにセミナーを終えることができました。

日時：平成22年2月18日(木) 15:00～17:15  
会場：横須賀合同庁舎 5F大ホール  
横須賀市日の出町2-9-19 TEL:046-823-0210

プログラム

I. 神奈川県の中小企業政策	神奈川県商工労働部産業活性課副主幹	森 宏明氏
II. 地球温暖化対策に関する計画書	神奈川県環境農政部環境計画課技幹	池貝 隆宏氏
III. 知的財産活用入門	神奈川県特許情報活用支援アドバイザー	渡邊 功人氏
IV. アイディア・発明の権利化	産業クラスター研究会理事長	木下 武氏

森講師のお話は多くのデータ、資料を下に県の中小企業活性化推進条例を中心にして如何に企業・団体等の担い手が連携協力して中小企業の活性化を推進するか、同時に県の諸支援策の具体的な内容についても説明されたものでまさに中小企業活性化推進月間にふさわしいものでした。

池貝講師は昨年度より実施された「神奈川県地球温暖化対策推進条例」と今年より実施予定の「省エネ対策事業費補助制度並びに事業費融資」について実例も交えてわかりやすく説明されました。県内のCO2排出量は2006年には1996年比較で10.2%も増大したことや「事業活動温暖化対策計画書」の任意提出制度が決まったこともあり参加者の関心が高く15分という、短時間の講演にもかかわらず多くの質問が出されました。

渡邊講師の知的財産活用入門は主要な知的財産権のイ、ロ、ハから登録・検索・活用・国際化対応までを含めた一時間に及ぶもので日頃余り関心の薄い特許や

商標の重要性を多くのスクリーン表示資料でご自身の言葉で判りやすく語られ参加者が思わず引き込まれてしまう大変な熱演でした。

最後の当研究会木下講師の講演は上記の資料の一部をもとに、特許出願時に重要とされる部分を特に抽出して実際の出願時の注意点などを解説するとともに当会の発明相談会開催のPRも含めた非常に実用的なもので講演会の締めにあつさわしい内容でした。

講師の方々にはご多忙中にも拘わらず遠路講演をいただき大変有意義なお話をさせていただくともに県の関係者の多くのご協力で成功裏にセミナーを終了し、大変ありがとうございました。いずれの講演も当研究会の今後の運営にとっても参考になることが多く、さらなる活動・運営強化に即刻生かしていきます。

セミナー終了後には来賓・講演者の方々も交えた交流会が開催され交流会のみの参加者も見受けられ、和気あいあいの雰囲気であつという間の一時間余りでした。

### 理事会と総会のお知らせ!

\* 理事会：5月14日(金) 17:00～19:00 横須賀汐入産業交流プラザ第4会議室

\* 総会：5月28日(金) 17:00～19:00 横須賀汐入産業交流プラザ第1研修室  
尚、総会終了後19:00からサロン室で懇親会を予定しております。

\* 新入会員紹介 個人会員 阿部 昭彦さん…… 横浜市金沢区在住 田中貴金属工業 OB



# 知的財産セミナーと懇親会風景



発行：NPO 法人 産業クラスター研究会 / 〒 239-0847 横須賀市光の丘 8-3 YRP ベンチャー棟 209 号  
Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : int\_cluster@ybb.ne.jp  
横浜事務所 / 〒 231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 7 階 12 号室  
Tel : 045-633-6488 / Fax : 045-633-5183  
E-mail : cluster88yokohama@ybb.ne.jp  
東京事務所 / 〒 150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-25-21  
渋谷 NT ビル 3 階 (株) リズム内  
発行人：木下 武 / 編集人：卯月 文・赤羽孝之・大西洋治・大久保全勝・佐々木興吉・杉山徳義・堀家彰生